

令和7（2025）年度 栃木県 外国人材活用強化事業

令和7年度 オーダーメイド日本語研修実施結果



公益財団法人 栃木県国際交流協会
Tochigi International Association

とちぎ外国人材受入支援センター

【研修目的】

栃木県では、人口減少と少子高齢化により生産年齢人口が減少し、製造業・農業・建設業・介護・サービス業など幅広い分野で人手不足が深刻化しています。今後も外国人材の増加が見込まれる中、言語の壁が業務遂行や職場コミュニケーションの大きな課題となっています。そのため本研修では、**県内企業のニーズに合わせた完全オーダーメイド型の日本語研修を実施し、外国人材が安心して長く働き、日本人と協働できる環境づくりを支援すること**を目的としています。

【内 容】

本事業では、**企業ごとの課題に応じて日本語研修、ビジネス日本語研修及び働き方理解研修等を設計し、外国人材と日本人従業員との円滑なコミュニケーションの実現を目指してカリキュラムを作成しました。**

初級者には基礎文法や漢字の習得、中級者には語彙力及び読解力の強化、特定技能2号取得を目指す者には専門語彙及び評価試験対策を中心に構成しています。さらに、宿泊業や製造業等の業種特性に応じたコミュニケーション力の育成、リーダー候補者向けのマネジメント研修など、多様なニーズに対応したプログラムも実施しました。これらの取組により、受講者が現場で即時に活用できる実践的な日本語能力の習得を目指して実施しました。

【実 績】

運営事業者：内定ブリッジ株式会社

対象企業数：10社

対象外国人：90名（10社全体として）

研修時間：48時間（1社あたり）

研修構成：集合研修／オンライン研修

実施期間：令和7（2025）年9月～令和8（2026）年2月

社会福祉法人 洗心会 様

対象者	タイ特定技能人材（6名） ミャンマー技能実習生（6名）
実施形態	対面研修
研修期間	2025年9月1日～2026年2月24日
実施曜日	1. 毎週火曜日 16:00～17:00 2. 毎週月曜日 16:00～17:00
実施時間	16時00分 ～ 17時00分
課題整理	・日本語教育の体系化が未整備 ・特にタイ特定技能者の日本語力強化が急務
研修目標	<初級クラス> N3合格を目指し、文法習得、入門レベルの漢字をN4からN3レベルに引き上げる。 <中上級クラス> N2合格を目指し、文法習得、初級レベルの漢字をN3からN2レベルに引き上げる。

【成果】

- ・初めての外部研修を通じて、企業として日本語教育の必要性や運営の基本を理解できた。
- ・半年間の研修をやりきったことで、人材育成への自信が生まれた。
- ・記録業務の日本語表現が明確に改善し、外国人材と日本人スタッフの会話も文として成立するレベルに向上した。
- ・レベル別クラスと体系的カリキュラムが効果を発揮し、学習習慣が定着した。

【今後の課題】

- ・転職志向の受講者は学習意欲が安定せず、動機づけの仕組みづくりが必要。
- ・一部で異文化間の価値観の違いが表面化しており、企業として異文化理解・マネジメント研修の導入が望ましい。
- ・JLPT受験結果を踏まえ、継続的な学習支援や進捗管理の改善が必要。
- ・研修成果を次年度の育成計画に反映し、教育体制の強化につなげることが重要。

株式会社バンテック様

対象者	ベトナム人、中国人、インドネシア人 ネパール人、スリランカ人 計10名 (2号試験受験予定者2名、技人国8名)
実施形態	オンライン研修
研修期間	2025年9月2日～2026年2月26日
実施曜日	火曜日、木曜日
実施時間	16時00分～17時00分
課題整理	<ul style="list-style-type: none">・特定技能2号や日本語レベルの把握・特定技能2号合格による長期キャリア形成を目指したい・内的動機づけの強化が必要
研修目標	特定技能2号試験のビジネス・キャリア検定合格を目指し、合格を目指す。 技人国の基礎力、応用力をつける

【成果】

- ・初めての外部講師による研修であったが、マネージャーがほぼ全回参加し、受講者の学習状況を把握できた。
- ・受講者は週2回の研修に積極的に参加し、学習意欲の高さが企業側の想定を上回った。
- ・研修後には受講者が上司へ質問する場面が増え、社内の学習文化が広がりつつある。
- ・1名がビジネス・キャリア検定及び2号評価試験に合格し、他の受講者の自信向上にもつながった。
- ・専門用語の理解が深まり、業務への自信と意欲が高まっていることを企業として実感。

【今後の課題】

- ・外国人社員の日本語レベルの事前アセスメントの実施。
- ・技人国人材について、企業側の想定より専門語彙の理解不足を把握できたため、導入基礎教育を検討。
- ・教育体制の構築や育成方針の明確化。

株式会社アイ電子工業 様



対象者	技・人・国 1名 (スリランカ人) 技能実習生 3名 (ベトナム人)
実施形態	オンライン研修
研修期間	2025年9月3日~2026年2月25日
実施曜日	リーダーシップ (技人国) コース 金曜日/隔週 JLPT対策 (技能実習生) コース 毎週水曜日
実施時間	リーダーシップコース 16時00分~17時00分 JLPT対策コース 15時00分~16時30分
課題整理	・外国人材の中長期キャリア設計が未整備 ・研修ゴールが不明確だった
研修目標	<u>リーダーシップ研修 (技人国)</u> (1) リーダーの役割とリーダーシップの理解 (2) リーダーとしての指導法の理解 (3) リーダーの自覚とリーダーとしての自分のスタイルの確立 (4) 企業における組織行動の理解 (5) 日本企業におけるビジネススキル <u>JLPT対策コース (技能実習)</u> JLPTN 4レベルの文法、漢字を身に付ける。

【成果】

①リーダーシップコース (技人国)

- ・宿題や語彙調査に主体的に取り組み、自分で考えて動く姿勢が定着し始めた。
- ・現場でも指示待ちから自発的行動へ変化し、企業としてリーダー育成の成果を実感している。

②JLPT対策コース (技能実習)

- ・毎週の研修が学習意欲を支え、1名がN4合格。N3に向けた自主学習も継続。
- ・講師とのやり取りが自立し、日本語運用力の向上を確認。
- ・外部研修の実施方法を企業が学び、社内の学習管理や日本語指導が強化された。
- ・研修の認知が広がり、日本人スタッフの関わり方にも前向きな変化が生まれた。

【今後の課題】

- ・年下の受講者への過度なフォローが学習機会を奪う可能性があるため、日本語でのコミュニケーション方針を明確にし、人事からの働きかけを継続することが望ましい。

株式会社 壮関 様

対象者	技能実習生 15名 ベトナム人 (20期6名 21期9名)
実施形態	対面研修
研修期間	2025年9月1日~2026年2月24日
実施曜日	原則 月曜 (一部 火曜日に変更)
実施時間	15時 30分 ~ 17時 30分
課題整理	<ul style="list-style-type: none">・省人化によりコミュニケーションが希薄化・日本語能力の低下を懸念・品質に関わる仕様書理解が課題
研修目標	<ul style="list-style-type: none">・作業指示が理解できて行動できる・指示がわからなかった場合にはそのことが伝えられる・指示内容が理解できたと思った場合には確認ができる・社内での基本的なコミュニケーションができる・今後の自学の習慣をつける



【成果】

- ・受講者が積極的に研修へ参加し、ロールプレイを通じた日本語でのやりとりが定着した。
- ・現場の上司・同僚が研修に参加したことで、学んだ表現を現場指導に活かすことが可能となり、コミュニケーションの質が向上した。
- ・会話量の増加により業務が進めやすくなったとの評価もあり、現場改善につながる成果が確認された。

【今後の課題】

- ・学習意欲の差が成果に影響し、企業としてのフォロー検討要。また3ヶ月では現場会話力の向上に限界があり、より大きな成果を求める場合は研修期間の延長が望ましい。
- ・今後は業務内容とキャリアパスを整理し、段階ごとに必要な日本語能力を明確化したうえで、学習体制の構築を検討が必要。

アーケテック株式会社 様



対象者	外国人材 8名 (フィリピン人)
実施形態	オンライン研修
研修期間	2025年9月5日 ~ 2026年2月27日
実施曜日	毎週 金曜日
実施時間	15時 30分 ~ 17時 30分
課題整理	<ul style="list-style-type: none">・日本語教育の経験がなく進め方が不明・現場で日本語が伝わりづらい・将来リーダー候補として育成したい
研修目標	職場での円滑なコミュニケーションのために、仕事で必要なストラテジーを身に付ける。 仮名の読み書きができる。

【成果】

- ・初めて日本語学習の場を提供し、受講者が毎週前向きに参加した。
- ・初級レベルの人材も自信を持って日本語を使えるようになり、現場での会話量が増加。
- ・日本人スタッフの声かけや会話の質も向上し、コミュニケーションが活発化。
- ・リーダーシップを発揮する人材が新たに確認され、人材発掘にもつながった。

【今後の課題】

- ・日本語力の向上に伴う個人差拡大が見込まれ、レベル別支援体制の整備が課題。
- ・将来のキャリアパスを明確化し、役割に応じた日本語能力基準の整理など検討。

株式会社アルレクス 様



対象者	技能実習生 3名 (バングラデシュ) 特定技能 4名 (ベトナム)
実施形態	オンライン研修
研修期間	2025年9月6日 ~ 2026年2月28日
実施曜日	毎週土曜日
実施時間	19時00分 ~ 21時00分
課題整理	<ul style="list-style-type: none">・福利厚生・生活支援は充実しているが、日本語教育の体系化を検討したい・キャリアアップ制度は整備中で、特定技能2号合格を目指す方針
研修目標	<p>①技能検定1級合格に向けた基礎となる語彙を習得する。→10/25より ご要望により技能検定1級の学習へ変更</p> <p>②漢字：使用する漢字テキストで学習する漢字186字程度を覚える。語彙リストで頻出する漢字がわかるようになる。漢字の基本構造を理解し、部首や音符から意味・音を推測できるようになる。</p>

【成果】

- ・企業として日本語学習や座学研修の経験がほぼない中、目標設定や内容調整を重ねながら研修を実施できた。
- ・参加した2名は研修外でも自学自習に取り組み、漢字・語彙力が大幅に向上し、テキストの語彙をほぼ読めるレベルまで成長した。
- ・テストでも複数名が高得点を記録し、企業全体でも特定技能2号合格者が出るなど、学習成果が広がり始めている。
- ・人事担当者が研修を継続的に見学し、講師の指導方法から多くの示唆を得るなど、今後の育成体制づくりに資する学びが得られた。

【今後の課題】

- ・今回は技能検定1級合格を前提としたカリキュラムだったが、特定技能2号評価試験という別の受験ルートもあることが分かり、教育体制の見直しが今後の課題となる。

株式会社 アグロエコロジー 様



対象者	特定技能 4名 (インドネシア人)
実施形態	オンライン研修
研修期間	2025年12月2日~2026年2月26日
実施曜日	毎週 火曜日、木曜日
実施時間	16時00分 ~ 18時00分
課題整理	<ul style="list-style-type: none">・ 特定技能1号→2号への移行期で、リーダー育成が急務・ 外国人材を増員予定で、日本語力の底上げが必要・ 日本人社員にも「教え方」を理解させたい
研修目標	<ul style="list-style-type: none">・ 特定技能2号(耕種農業)の学習用テキストを用いて知識や専門用語を理解する。 <p><対象章> :</p> <ul style="list-style-type: none">「2. 耕種一般」 「3. 安全衛生」「4. 稲作作業」 「5. 畑作・野菜作業」「6. 施設園芸作業」 「9. 農作業の用語」

【成果】

- ・ 企業として初めて日本語研修・技術研修を座学で実施し、人事責任者・経営者が毎回アテンドするなど、育成への高い意欲が見られた。
- ・ 受講者4名は前向きに取り組み、漢字・語彙力が大幅に向上。テキストの語彙を概ね読めるレベルまで成長し、テストでも高得点を確認された。
- ・ 研修を通じて、業務中でも「わからない点を明確に伝える」姿勢が定着し、現場コミュニケーションの質が改善した。
- ・ 人事担当者が講師の指導方法から多くの示唆を得るなど、今後の育成体制づくりにも資する学びが得られた。

【今後の課題】

- ・ 若手2名の現時点でのテスト結果は伸び悩んでおり、継続的なフォローが必要。
- ・ 標準作業書・技術基準書などの整備化
- ・ 人事評価制度との連動化するなど、教育体制の再構築

株式会社 健食 様



対象者	技能実習生12名（1号6名 2号6名） （インドネシア人）
実施形態	対面研修 → 3回目以降 オンライン
研修期間	2025年9月1日～2026年2月17日
実施曜日	月曜日 ・ 火曜日
実施時間	16時00分 ～ 17時00分
課題整理	<ul style="list-style-type: none">・ 企業担当者がJLPT対策を自主実施するなど育成意欲は高い体系化した日本語教育はこれから・ 今後の育成就労制度を見据えた基盤づくりが必要
研修目標	<u>Aクラス</u> JLPT N3合格を目指し、文法習得、入門レベルの漢字をN4からN3レベルに引き上げる。 <u>Bクラス</u> JLPT N4レベルの文法を定着させ、同レベルの漢字を習得する。

【成果】

- ・これまで日本語学習支援の知見がなかった企業にとって、本研修は人材育成の方向性を考える大きな契機となった。
- ・日本語学習をキャリア形成とセットで捉える必要性を認識し、役員会でも議論が始まるなど、組織全体の意識変化が見られた。
- ・日本人社員も巻き込んだ学習機運が高まり、「学びの場づくり」が社内に定着しつつある。
- ・受講者も授業に熱心に取り組み、学習機会を前向きに活用する姿勢が育っている。

【今後の課題】

- ・一部の外国人社員は日本語力が不足しており、指示理解や指示書の読解に課題がある可能性がある。（フォロー要）
- ・業務指導の流れやミス発生時の原因分析を含めた指導体制の見直しが必要。（社内の合意形成要）
- ・入国後に学習意欲が低下する傾向があるため、キャリアパスと連動した継続支援の仕組みづくり検討。

那須高原牧場 株式会社 様

対象者	特定技能者 15名 (カンボジア人)
実施形態	オンライン研修
研修期間	2025年9月2日 ~ 2026年2月24日
実施曜日	Aクラス：毎週 火曜日 Bクラス 毎週 木曜日
実施時間	17時00分 ~ 18時00分
課題整理	・カンボジア人特定技能者のキャリアアップ 施策を検討中 ・特定技能2号への移行を強化したい
研修目標	<u>Aクラス</u> 職場での円滑なコミュニケーションのため、N4レベルの日本語力と仕事に必要なストラテジーを身に付ける。N4レベルの漢字が読める。 <u>Bクラス</u> 職場での円滑なコミュニケーションのため、N5レベルの日本語力と生活に必要なストラテジーを身に付ける。N5レベルの漢字を習得する。

【成果】

- 研修を通じて外国人社員の発話が積極的になり、確認・質問が自発的にできるようになった。
- 宿題提出や自主学習が習慣化し、漢字・語彙力の向上やミスの減少が見られた。
- コミュニケーションストラテジーの導入により、業務中のやりとりが円滑になり、生産性向上につながる行動変容が確認された

【今後の課題】

- Aクラスは基礎文法の定着が不十分で、初級文法・語彙の学び直しが必要。
- 発音が聞き取りにくい人材もあり、今後の発音指導が課題。
- 質問が増え工程が増える場面もあり、現場との調整や合意形成が必要。
- 育成就労に向け、日本語力向上のための継続的な学習機会の提供

株式会社 八丁の湯 様

対象者	技能実習生、特定技能、技・人・国 計3名 (ミャンマー人等)
実施形態	オンライン研修
研修期間	2025年9月2日~2026年2月24日
実施曜日	毎週 火曜日
実施時間	15時00分 ~ 17時00分 飲食とフロントで時間を変則的に実施する。
課題整理	・接客レベル向上急務 ・外国人社員の日本語力・所作に課題 ・育成体制が手探り状態
研修目標	料飲サービス、フロントサービスにおいて、基準に見合ったサービスが提供できるようになる

【成果】

- ・高級宿として求められる接遇レベルに対応するため、企業が抱えていた外国人社員の課題を踏まえた研修を実施し、業務理解と対応力が向上した。
- ・モデル文の丸暗記から脱却し、意味を理解したうえで気持ちを込めた表現ができるようになり、顧客満足度につながる対応が可能になった。
- ・研修を通じて、外国人社員の業務姿勢やコミュニケーションの質が改善し、現場での実践力が高まった。

【今後の課題】

- ・人の入れ替わりが激しく、研修参加者の定着が課題。採用・研修・定着を一体で考えた仕組みづくりが必要であり、どのように選考し、育成し、定着につなげるかが大きな課題となる。

事業全体の成果総括

① 日本語能力の向上と業務遂行力の改善

- 会話量が増え、現場コミュニケーションが円滑化
- 文法・語彙の定着により、記録・報告の質が向上
- 専門用語の理解が深まり、業務への自信が向上
- JLPT・ビジネスキャリア検定など資格取得への意欲が向上

② 企業側の学習支援体制の変化

- 上司・同僚が研修に参加し、現場での声かけ・指導が改善
- 外国人材の日本語レベル把握の重要性を認識
- 社内で日本語学習支援を開始する企業が増加
- 研修成果を踏まえ、人材育成方針を見直す動きが広がった

③ 外国人材の主体性・学習意欲の向上

- 宿題・自主学習への積極的な取り組み
- 研修後に上司へ質問するなど、学習姿勢が前向きに変化
- JLPT受験準備など、自主的な学習行動が増加
- リーダー研修では、自発的行動や役割認識が向上

【参加企業様の声】

- 「担当の講師のペースについていけない状況がありましたが、相談の上ペースを合わせて頂いた
ので、以後の研修においては理解度が上がったように感じます。ありがとうございました。」
- 「研修には現場社員も立ち会うことで、実習生の日本語レベルを直接確認できただけでなく、研
修中の会話内容を共有することができました。その結果、現場内においても実習生との会話の機
会が増え、良い効果が見られました。また、今回の日本語研修を通じて、日本人側のコミュニ
ケーションの取り方や指導方法について、社内の課題を改めて認識することができました。」
- 「半年間に渡り研修を実施頂き、誠にありがとうございました。受講した実習生にとりまして大
変有意義な学びの機会となり心より感謝申し上げます。研修を通じて、日本語でのコミュニケー
ションに対する意識の向上や職場での理解度の改善が見られており、現場においても良い変化を
感じております。」
- 「今回の研修では、弊社で今まで行う事が出来ていなかった外国人教育に対し、大いに学ぶ事が
出来ました。今回の研修を今後の日本語教育に繋げていき、弊社での教育体制構築に繋げていき
たいと思います。」
- 「テスト結果から、研修生の理解度に個人差があることが解りました。日本語研修未受講者が多
数いるので、機会があれば今回のような日本語研修を受講させたい。」